

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成 25年 6月 28日

1 実施主体

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称		繋がろう！福島～青森販売交流推進協議会		
代表構成員の団体名 及び代表者職氏名		特定非営利活動法人プロ・ワークス十和田 理事長 中野 正三		
構成団体	都道府県・市区町 村名及び部課名	十和田市民生部 まちづくり支援課	事業における 役割	避難者の情報支援等
	民間非営利組織の種別・名称	特非) プロ・ワークス十和田		主管業務
		特非) 国際ボランティアセンター青森	事業における 役割	ボランティア派遣等
	住所	青森県十和田市大字三本木 字並木西 429-4	電話番号	0176-22-8067

2 事業概要

事業名	繋がろう！福島～青森復興自立支援事業
総事業費	4,447,000円（うち希望補助金額3,710,000円）
事業の実施期間	平成 25年 7月 1日から平成 26年 3月 31日まで

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

地域における 課題と事業の 目的	<地域課題> 東日本大震災及び震災に伴う原発事故からの長期被災に対し、国や民間団体からの継続的な支援を受けている中、『住民自身の向上心と自立心』が喪失しつつあることが今後の継続的な復興の遅延を招くことになる。
	<目的> 平成 24 年度福島県地域づくり総合支援事業『繋がろう！福島～青森販売交流推進事業』を通じて得た福島県から青森県のネットワークを活用し、福島県の民間団体が福島県支援の形を復興支援サロンで学び、『住民自身の向上心と自立心』を継続していくためのノウハウを構築していくことを目的とする。

事業の目標	<p><事業の目標></p> <p>1、福島県からの青森県避難者への手づくり情報発信 8回 (さらに事業終了後の継続基盤の構築)</p> <p>2、『繋がろう！福島～青森復興交流サロン』の開催 274日 (7月1日から3月31日まで無休で開設することにより避難者への拠点となりうる。)</p>																															
事業内容	<p><事業の3つの柱></p> <p>1、事業型市民団体実践ノウハウの研修</p> <p>2、福島県から青森県内への避難者への情報提供</p> <p><内容></p> <p>○事業型市民団体実践ノウハウの研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『繋がろう！福島～青森復興交流サロン』の運営の協働 (青森県十和田市に於いて前年実施内容を踏襲予定) <p>○福島県から青森県内への避難者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県からの青森県内避難者に対し、行政機関を通じた上での市民ネットワークから生まれる住民目線の福島情報を提供する。 (7月から3月までの9か月予定) 																															
見込まれる成果	<p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> <p><直接的な効果></p> <p>1、事業化を目指す福島県内における任意団体の法人化支援 任意団体 TKB すかがわ等福島県内活動団体の法人化支援</p> <p>2、手づくり情報誌の提供=185人（平成25年3月配布実績） (青森県内 11町村=青森市 60人、弘前市 36人、五所川原市 13人、十和田市 21人、三沢市 8人、むつ市 15人、平川町 1人、六ヶ所村 5人、五戸町 20人、南部町 3人、野辺地町 3人)</p> <p><波及効果></p> <p>1、『繋がろう！福島～青森復興交流サロン』運営を通じての福島県産品の販売促進</p> <p>2、福島県からの青森県避難者の交流拠点による心の支え</p> <p>3、青森県民の震災復興機運の維持</p> <p>2. 取組実施主体の運営力強化の観点</p> <p><運営力強化の観点></p> <p>1、他県団体とのサロン共同運営による情報収集能力の向上</p> <p>2、他県団体との交流事業を通じた企画力の向上</p> <p>3、協議会運営を通じた事業会計能力の向上</p> <p>4、事業化推進研修を通じた実践能力の向上</p>																															
事業スケジュール	<p><スケジュール></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1、研修</th> <th>3、情報誌</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>○サロン仮開設</td> <td>○情報誌発行①</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>○サロン本開設</td> <td>○情報誌発行②</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td></td> <td>○情報誌発行③</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td></td> <td>○情報誌発行④</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td></td> <td>○情報誌発行⑤</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td></td> <td>○情報誌発行⑥</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> <td>○情報誌発行⑦</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td></td> <td>○情報誌発行⑧</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td></td> <td>○情報誌発行⑨</td> </tr> </tbody> </table>			1、研修	3、情報誌	7月	○サロン仮開設	○情報誌発行①	8月	○サロン本開設	○情報誌発行②	9月		○情報誌発行③	10月		○情報誌発行④	11月		○情報誌発行⑤	12月		○情報誌発行⑥	1月		○情報誌発行⑦	2月		○情報誌発行⑧	3月		○情報誌発行⑨
	1、研修	3、情報誌																														
7月	○サロン仮開設	○情報誌発行①																														
8月	○サロン本開設	○情報誌発行②																														
9月		○情報誌発行③																														
10月		○情報誌発行④																														
11月		○情報誌発行⑤																														
12月		○情報誌発行⑥																														
1月		○情報誌発行⑦																														
2月		○情報誌発行⑧																														
3月		○情報誌発行⑨																														

事業実施体制	<p>事務局 NPO法人 プロ・ワークス十和田 (総合管理 活動のコーディネート 事業型団体実践指導等) NPO法人 国際ボランティアセンター青森 (情報の発信・ボランティア参加支援等) 弘前大学大学院地域コミュニティ研究会 (研修会企画等) TKBすかがわ (連携によるサロン運営) 福島県須賀川市 (情報提供) 青森県十和田市民生部まちづくり支援課 (情報提供)</p>
事業終了後の 展開	<p><会議体の取組み> ○ネットでの情報共有を基本とし、事業から派生した福島県産品の販売促進についての協議をし、事業による団体の自立を図る。</p> <p><会議体の発展> ○関係する団体のそれぞれのソーシャルビジネスによる事業化を相互に支援しあう会議体としていく。</p>
事業の先進性・ 普及性	<p><事業の先進性> ○行政区画を超えた市民による人材育成である。 ○人材育成による足腰の強い継続的な復興支援である。</p>
特記事項	<p>「平成24年度福島県地域づくり総合支援事業」において昨年11月に須賀川市を訪れた際に、TKBすかがわメンバーとの交流会内で、メンバーの方から長沼地区の藤沼ダムが大震災直後に決壊して民家が流される被害があったと伺った。さらに、この被害の中で地元の中学校の卒業式を終えて祖父母の家に来ていた萌ちゃんが不幸にもダムの濁流に流されてしまい、下流で見つかったものの、1歳の子どもも流されたが見つかってはいないことを聞いた。</p> <p>長沼地区の住民によると長沼地区には、秋祭りは地域住民が参加して毎年、盛大に行われているが震災の福島県被害と心の傷により、当初は祭りを行っていいものなのかとの葛藤があったと聞く。</p> <p>今年2月TKBすかがわメンバーが青森に来た際、中野さんの講演で、「長沼地区の住民が震災の影響で開催するかどうか迷っていた。祭りは、『萌ちゃんが生きているときっと笑顔で祭りに参加していたはずだ』との思いから萌ちゃんねぶたを作り祭りをおこなった。」とスライドを通して講演を拝聴した。</p> <p>今年3月TKBすかがわの方々等と須賀川市を訪問して長沼地区藤沼湖を視察した際、地元の市民団体の方から「この地域は放射線の高い所で、地区住民の意欲の喪失改善になんとか力かしてあげたい」と相談された。</p> <p>萌ちゃんの夢だった青森ねぶたを福島の子供たちに見てもらうことで失いかけていた明日を生きる力を取り戻してほしい。さらに、私</p>

たちが地元の市民団体自身の思いを自らの力で遂行できるように力を合わせることができたらと痛感した。

平成 25 年 4 月

天内恵美の手記より抜粋

※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
収支予算書

申請者名 繋がろう！福島～青森販売交流推進協議会

【収入の部】

(単位：千円)

区分	平成25年度 予算額	明細
ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金	3,710	補助金
自己資金（負担者名）	737	自己資金
事業収入		
その他収入		
収入合計	4,447	

【支出の部】

(単位：千円)

区分	平成25年度 予算額	明細
人件費（共済費を含む）	2,118	サロン人件費 1,412,640円 (@654×6h×20日×2人×9か月) サロンボランティア賃料 706,320円 (@654×6h×20日×9か月) 2,118,960
報償費	17	協議会謝金 17,658円 (@654×3h×1人×9回)
旅費	90	協議会旅費 90千 (@2,000×5人×9回)
需用費	617	
消耗品費	227	サロン展示物産品 137千円 事務用品費 90千 (@10,000×9か月)
燃料費	90	サロン担当移動用燃料費 90千 (@10,000×9か月)
印刷製本費	300	避難者支援情報誌印刷製本費 300千
役務費	270	
通信運搬費	270	インターネット回線使用料 90千 (@10,000×9か月) 携帯電話使用料 90千 (@10,000×9か月) 郵送費 90千 (@10,000×9か月)
手数料		
保険料		

使用料及び賃借料	1,335	サロン会場賃借料 720 千 (@80,000×9 か月) サロン I T 機器賃借料 270 千 (@30,000×9 か月) サロン事務局車両借上げ料 270 千 (@30,000×9 か月) 会場賃借料 75 千
委託料		
支 出 合 計	4,447	

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。